

外部アンケート調査報告書

平成 25 年 3 月

茨城大学工学部
教育改善委員会

はじめに

現在の日本は、急激な少子高齢化の進行、地域コミュニティの衰退、グローバル化によるボータレス化、新興国の台頭による競争激化など急激な変化や、茨城県にも大きな被害を与えた東日本大震災という国難に直面しています。そのような状況において、社会の要請に応えた人材育成はこれまで以上に重要になってきています。

茨城大学工学部では第二期中期計画(平成 22 年～27 年)の「修士課程の教育の成果と改善」において、人材育成目的に沿った修了生を輩出しているかを点検するため、平成 23 年度に**理工学研究科博士前期課程工学系修了生**を対象に、企業アンケートと修了生アンケートを実施しました。なお、工学部の卒業生につきましては、既に、平成 18 年度に実施しています。

アンケート実施にあたっては、工学部教育改善委員会が担当し、WG グループを結成し、修了者の主たる進路先である民間企業の人事担当の方々(**企業アンケート**)および最近 5 年間の修了生の方々(**修了生アンケート**)から、教育成果について率直なご意見を戴きました。ここで、アンケート用紙を郵送し、回答をお願いしました。アンケートの実施期間が短かったにもかかわらず、56 社(回収率 31.6%)の企業と 81 人(回収率 15.1%)の修了生の方々からご回答戴き、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。アンケート結果は教育改善委員会で検討するとともに、既に企画立案委員会、工学系の各専攻にフィードバックしており、カリキュラムや教育方法の改善の資料にさせて戴いております。

今後とも、進路先企業および修了生の皆様から茨城大学大学院理工学研究科のために暖かいご指導ご鞭撻を賜りますよう、また、次回の調査へのご協力お願い申し上げます。

平成 25 年 3 月 31 日

茨城大学工学部教育改善委員会委員長
副学部長(教育担当) 栗原 和美

本件に関する問い合わせ先:茨城大学工学部学務第一係(仁平)

TEL: 0294-38-5009 FAX: 0294-38-5260

E-mail: nida@mx.ibaraki.ac.jp

茨城大学大学院の教育改善に関する外部アンケートの実施と報告

中期計画中の「修士課程の教育の成果と改善」(R111g07) の平成 23 年度計画に基づき、学部アンケートを実施し、回収結果をまとめ報告する。

国立大学法人茨城大学 平成23年度 年度計画

[修士課程の教育の成果と改善]

■7 研究科の教育目的に沿った人材を育成するため、統一した成績評価基準を導入して達成度を明確にした教育課程に改善する。(R111g07)

計画施策:人材育成目的に沿った修了生の輩出(R111g07-1)

◇ 23年度計画:修了生アンケートと就職先アンケートを行う。人材育成が目的に沿っているかの点検を行う。

本計画の実施と報告は、工学部教育改善委員会において担当し、担当 WG(上田、宮嶋、寺内)により検討し、実施した。以下にアンケート実施の概要と作業日程の経過概要を示す。

1. 目的

大学院の教育改善を進めるにあたり、授業が社会的な要請に込えているかどうか検討するために企業アンケートを実施し、アウトプットアセスメントの立場から問題点を把握し、授業改善に役立てる。

2. 実施方法

企業アンケートは企業の人事担当者を中心に行う。

修了生アンケートは最近5年間に大学院を修了した学生に対して行う。

アンケート質問票は教育改善委員会で作成する。

回答は、5段階レベル、および「わからない」の6択とする。そのほかに自由記述欄を設ける。

3. 実施対象の把握

企業アンケートは、理工学研究科(工学系)修了者の就職先情報に基づき、200 社程度選定する。

修了生アンケートの実施対象は、最近5年間修了者 1079 人の半数 500 人程度を対象とする。

	H18	H19	H20	H21	H22	計
機械工学	30	49	42	31	42	194
物質工学	35	18	30	30	30	143
電気電子工学	27	19	17	19	25	107
メディア通信工学	30	29	16	19	16	110
情報工学	29	18	23	18	26	114
都市システム工学	20	21	21	22	26	110
知能システム工学・システム工学	35	40	36	34	49	194
応用粒子線科学	27	22	22	18	18	107
合計	233	216	207	191	232	1079

4. 質問状送付の方法

原則的には封書で送付(切手つき返信用封筒同封)する。{検討によりのちに料金後納方式に変更}

修了時に報告された情報に基づき、企業アンケートとともに勤務先に送付し、人事部から回してもらう。企業アンケート送付先に勤務していない修了生には本人現住所に送付する。{対象外とした}

理工学研究科(工学系)ホームページは利用しない。

5. 送付先選定、送付、回収と集計

送付先選定、送付、回収と集計は、教育改善委員会で行ない、外部評価の資料として役立てる。

6. プライバシー

集計結果公表に際しては、企業人事担当者、修了生の個人名に関するプライバシーを厳守し、特に企業名が出ないように配慮する。

7. 作業日程の経過概要

7～8月:アンケートの質問票の検討、原案作成

9月:各専攻の意見徴収、送付先データの整理

10月:聴取意見の検討とアンケート質問票の修正、趣意書の作成

11月:送付先の選別、アンケート発送準備、「料金後納」扱いの手続き

12月:下旬に発送

1月:末日締め切りでアンケート回収

2月:下旬よりアンケートの集計

3月:アンケートの結果報告の作成

アンケート実施報告

1. アンケート送付と回収について

企業アンケートと修了者アンケートの回収率等を次に示す。

企業アンケート

送付企業数	177
送付部数	539
回収数	56
回収率(対企業)	31.6 %
回収率(対部数)	10.4 %

修了者アンケート

	修了者数	送付対象	対象者率	回収数	回収率
機械工学	194	120	61.9 %	13	10.8 %
物質工学	143	64	44.8 %	12	18.8 %
電気電子工学	107	67	62.6 %	10	14.9 %
メディア通信工学	110	62	56.4 %	6	9.7 %
情報工学	114	51	44.7 %	6	11.8 %
都市システム工学	107	48	44.9 %	15	31.3 %
システム工学/知能	216	97	44.9 %	11	11.3 %
応用粒子線科学	64	29	45.3 %	8	27.6 %
全体	1055	538	51.0 %	81	15.1 %

2. アンケート集計結果について

企業アンケートと修了者アンケートの設問毎の集計結果を以降に示す。

企業アンケート 質問および回答票

以下の質問項目（問1～5、可能であれば問20まで）について、お答えください。該当するものの□にチェック(✓)してください。

A あなたの会社についてお答えください。

問1 業種

☐ 建設業 ☐ 製造業 ☐ 通信業 ☐ 情報サービス業 ☐ 運輸業 ☐ 卸売・小売業
☐ 金融・保険業 ☐ 不動産業 ☐ サービス業 ☐ その他

問2 規模(従業員数)

☐ 100 人以下 ☐ 100～500 人 ☐ 500～1000 人 ☐ 1000～5000 人 ☐ 5000 人以上

	100 人 以下	100～ 500 人	500～ 1000 人	1000～ 5000 人	5000 人 以上	業種ごとの 合計
建設業	0	1	1	0	1	3
製造業	1	1	8	10	8	28
通信業	0	0	0	0	0	0
情報サービス業	0	1	4	2	0	7
運輸業	0	0	0	0	0	0
卸売・小売業	0	0	0	0	0	0
金融・保険業	0	0	0	0	0	0
不動産業	0	0	0	0	0	0
サービス業	0	0	1	0	0	1
その他	0	0	0	13	3	16
未記入	0	0	0	1	0	1
企業規模ごとの合計	1	3	14	26	12	56

問3 海外進出

☐ 海外にオフィスがあり海外勤務の可能性がある ☐ 海外にオフィスはあるが海外勤務の可能性がない
☐ 海外にオフィスがない

	100 人 以下	100～ 500 人	500～ 1000 人	1000～ 5000 人	5000 人 以上	合計
海外にオフィスがあり 海外勤務の可能性がある	0	1	7	16	11	35
海外にオフィスはあるが 海外勤務の可能性がない	0	0	0	4	0	4
海外にオフィスがない	1	2	7	6	1	17

B 茨城大学大学院理工学研究科は、次の教育研究理念のもと3つの目的を掲げています。

これらの内容についてどうお考えですか、下記の問4の質問にお答えください。

理念 自然や人間社会に対する深い洞察と高度な専門実践能力をもち、自然を探究して知識を体系的に組み立てながら問題を解決・評価することができる人材を育成する。また、世界レベルの学術研究を推進して社会に発信し、自然環境と調和した地域と人間社会の持続的発展に貢献する。

目的(1) 多様な科学的創造能力と問題解決能力を養成する教育研究プログラムにより、幅広い学際的視野と深い専門知識を修得させ、事象への探求心並びに創造性と実行力を併せもつ高度専門技術者・研究者を育成する。

目的(2) 科学技術分野において、地域の特色を活用して、国際的・学際的な視野に立った先進的・開拓的な研究を推進し、世界レベルの研究拠点を形成する。

目的(3) 教育・研究成果を積極的に地域や社会に還元して産業・文化・学術の発展に寄与する。

問4 「理念」や「目的」の内容について

☐ 良い ☐ 概ね良い ☐ 良くない部分がある ☐ 良くない ☐ わからない
「良くない部分がある」、「良くない」と考える理由をご記入ください。

	100 人 以下	100～ 500 人	500～ 1000 人	1000～ 5000 人	5000 人 以上	合計
良い	0	3	10	12	11	36
概ね良い	1	0	4	14	0	19
良くない部分がある	0	0	0	0	0	0
良くない	0	0	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0	0	0

教えて下さい。

理念の「自然環境と調和した地域と人間社会の持続的発展に貢献する」とは、

①「自然環境」と「調和した地域」と「人間社会」に対する持続的発展に貢献するのか

②「自然環境と調和した地域」と「自然環境に調和した人間社会」に貢献するのか

③「自然環境と調和した地域」と「人間社会の持続的発展」に貢献するのか

どっちでも良いと思うのですが、目的(3)から考えると②なのでしょうか？

すばらしい理念だと思います。

企業にとっても、その理念は同じだと考えます。

C 以下に、貴社、貴事業部に配属されている茨城大学大学院理工学研究科修士についてご意見を伺います。

問5 以降の質問(問6～問20)にお答えいただけますでしょうか。

☐ 質問に答える ☐ 以下の質問には答えたくない

質問に答える	54	以下の質問には答えたくない	3
--------	----	---------------	---

答えたくないとした方は、下の空欄にその理由をお書きいただき、アンケートを終わりにしてください。

理由:

業務多忙のため。(ご協力できず申し訳ありません)

修士生へのアンケートも申し訳ありませんが、ご協力できません。(東京都庁)

茨大(院)卒業生の絶対数が少なく、茨大として論じられない

(大人しい人が多いというイメージを持っていた方が、ここ2年程やる気ある学生が採れており、期待している)

対象者が少なく、個人が特定されてしまう為、個人の資質・能力に関する質問については、回答を控えさせていただきます。ご理解の程、宜しくお願い申し上げます

問6 茨城大学大学院修士生は、企業における活動に必要な工学専門教育を受けているとお考えですか。

☐ 十分である ☐ やや十分である ☐ 普通 ☐ やや不十分である ☐ まったく不十分である ☐ わからない

	100 人 以下	100～ 500 人	500～ 1000 人	1000～ 5000 人	5000 人 以上	合計
十分	0	1	1	7	2	11
やや十分	0	0	4	7	1	12
普通	0	0	7	10	5	22
やや不十分	1	1	1	1	0	4
まったく不十分	0	0	0	0	0	0
わからない	0	1	1	1	1	4

- 問7 茨城大学大学院修了生は、技術者として必要な幅広い知識と教養を身につけているとお考えですか。
☐ 十分である ☐ やや十分である ☐ 普通 ☐ やや不十分である ☐ まったく不十分である ☐ わからない

	100 人 以下	100～ 500 人	500～ 1000 人	1000～ 5000 人	5000 人 以上	合計
十分	0	1	2	6	1	10
やや十分	1	0	3	5	4	13
普通	0	0	6	13	2	21
やや不十分	0	1	2	2	1	6
まったく不十分	0	0	0	0	0	0
わからない	0	1	1	0	1	3

- 問8 茨城大学大学院修了生は、日本語による論理的な記述能力を身につけているとお考えですか。
☐ 十分である ☐ やや十分である ☐ 普通 ☐ やや不十分である ☐ まったく不十分である ☐ わからない

	100 人 以下	100～ 500 人	500～ 1000 人	1000～ 5000 人	5000 人 以上	合計
十分	0	1	2	5	1	9
やや十分	0	0	4	4	2	10
普通	1	1	5	15	4	26
やや不十分	0	1	3	2	2	8
まったく不十分	0	0	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0	0	0

- 問9 茨城大学大学院修了生は、日本語による口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力を身につけているとお考えですか。
☐ 十分である ☐ やや十分である ☐ 普通 ☐ やや不十分である ☐ まったく不十分である ☐ わからない

	100 人 以下	100～ 500 人	500～ 1000 人	1000～ 5000 人	5000 人 以上	合計
十分	0	1	1	5	1	8
やや十分	0	0	5	8	2	15
普通	1	1	6	10	3	21
やや不十分	0	0	2	2	2	6
まったく不十分	0	1	0	0	1	2
わからない	0	0	0	1	0	1

- 問10 茨城大学大学院修了生は、英語のコミュニケーション能力を身につけているとお考えですか。
☐ 十分である ☐ やや十分である ☐ 普通 ☐ やや不十分である ☐ まったく不十分である ☐ わからない

	100 人 以下	100～ 500 人	500～ 1000 人	1000～ 5000 人	5000 人 以上	合計
十分	0	0	0	0	0	0
やや十分	0	1	0	4	1	6
普通	0	0	5	8	2	15
やや不十分	1	0	3	9	3	16
まったく不十分	0	1	0	1	2	4
わからない	0	1	6	4	0	11

- 問11 茨城大学大学院修了生は、課題を見つけ解決する能力を身につけているとお考えですか。
☐ 十分である ☐ やや十分である ☐ 普通 ☐ やや不十分である ☐ まったく不十分である ☐ わからない

	100 人 以下	100～ 500 人	500～ 1000 人	1000～ 5000 人	5000 人 以上	合計
十分	0	1	3	4	1	9
やや十分	0	0	5	11	4	20
普通	1	1	3	10	3	18
やや不十分	0	1	3	1	1	6
まったく不十分	0	0	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0	0	0

問12 茨城大学大学院修了生は、担当業務に携わるのに必要な創造性を身につけているとお考えですか。

☐ 十分である ☐ やや十分である ☐ 普通 ☐ やや不十分である ☐ まったく不十分である ☐ わからない

	100 人 以下	100～ 500 人	500～ 1000 人	1000～ 5000 人	5000 人 以上	合計
十分	0	1	1	3	0	5
やや十分	1	0	5	10	3	19
普通	0	1	7	10	4	22
やや不十分	0	1	1	0	2	4
まったく不十分	0	0	0	1	0	1
わからない	0	0	0	2	0	2

問13 茨城大学大学院修了生は、技術者として必要な倫理観を身につけているとお考えですか。

☐ 十分である ☐ やや十分である ☐ 普通 ☐ やや不十分である ☐ まったく不十分である ☐ わからない

	100 人 以下	100～ 500 人	500～ 1000 人	1000～ 5000 人	5000 人 以上	合計
十分	0	1	4	7	2	14
やや十分	0	1	3	12	4	20
普通	1	1	6	6	1	15
やや不十分	0	0	0	1	2	3
まったく不十分	0	0	0	0	0	0
わからない	0	0	1	0	0	1

問14 茨城大学大学院修了生は、企業における活動に必要な情報処理の基礎教育を受けているとお考えですか。

☐ 十分である ☐ やや十分である ☐ 普通 ☐ やや不十分である ☐ まったく不十分である ☐ わからない

	100 人 以下	100～ 500 人	500～ 1000 人	1000～ 5000 人	5000 人 以上	合計
十分	0	1	4	5	2	12
やや十分	0	0	4	9	3	16
普通	1	2	4	11	4	22
やや不十分	0	0	2	1	0	3
まったく不十分	0	0	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0	0	0

問15 茨城大学大学院修了生は、計画的に仕事を進めまとめる能力を身につけているとお考えですか。

☐ 十分である ☐ やや十分である ☐ 普通 ☐ やや不十分である ☐ まったく不十分である ☐ わからない

	100 人 以下	100～ 500 人	500～ 1000 人	1000～ 5000 人	5000 人 以上	合計
十分	0	1	2	4	0	7
やや十分	0	0	7	7	4	18
普通	0	0	4	13	1	18
やや不十分	1	1	1	2	4	9

まったく不十分	0	0	0	0	0	0
わからない	0	1	0	0	0	1

問16 茨城大学大学院修了生は、企業における活動で良好な対人関係を保ち協調性を発揮しているとお考えですか。

☐ 十分である ☐ やや十分である ☐ 普通 ☐ やや不十分である ☐ まったく不十分である ☐ わからない

	100 人 以下	100～ 500 人	500～ 1000 人	1000～ 5000 人	5000 人 以上	合計
十分	0	1	3	11	3	18
やや十分	0	1	6	10	3	20
普通	1	1	5	5	1	13
やや不十分	0	0	0	0	2	2
まったく不十分	0	0	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0	0	0

問17 茨城大学大学院修了生に期待する TOEIC の点数は次のどのレベルでしょうか。

☐ 400～500 点 ☐ 500～600 点 ☐ 600～700 点 ☐ 700 点以上 ☐ 特に期待するレベルはない

	100 人 以下	100～ 500 人	500～ 1000 人	1000～ 5000 人	5000 人 以上	合計
400～500 点	0	0	1	2	0	3
500～600 点	1	1	5	12	1	20
600～700 点	0	1	3	5	7	16
700 点以上	0	0	0	3	1	4
期待するレベルはない	0	1	5	4	0	10

問18 茨城大学大学院修了生は学部卒業生と比較して、次のどのレベルに当たるでしょうか。

☐ とても優れている ☐ 優れている ☐ 少し優れている ☐ ほぼ同程度である ☐ 劣っている ☐ わからない

	100 人 以下	100～ 500 人	500～ 1000 人	1000～ 5000 人	5000 人 以上	合計
とても優れている	0	0	1	1	2	4
優れている	0	0	6	10	5	21
少し優れている	0	1	4	10	1	16
ほぼ同程度である	1	1	2	2	0	6
劣っている	0	0	0	0	0	0
わからない	0	1	1	3	1	6

問19 前問の比較で違いの目立つ特徴を全てチェックして下さい。

☐ 幅広い知識や教養 ☐ 論理的な記述力 ☐ コミュニケーション力 ☐ 英語力 ☐ 課題解決能力
☐ 創造力 ☐ 技術者倫理感 ☐ 情報処理能力 ☐ 計画力 ☐ 協調性

	100 人 以下	100～ 500 人	500～ 1000 人	1000～ 5000 人	5000 人 以上	合計
幅広い知識や教養	0	0	6	6	3	15
論理的な記述力	0	0	3	7	1	11
コミュニケーション力	0	0	3	4	2	9
英語力	0	0	1	0	0	1
課題解決能力	0	0	3	9	5	17
創造力	0	0	2	2	0	4
技術者倫理観	0	1	2	8	3	14
情報処理能力	0	0	4	5	4	13
計画力	0	1	3	5	2	11

協調性	0	0	2	8	2	12
-----	---	---	---	---	---	----

問20 最後に、茨城大学大学院理工学研究科の教育に関してご意見があれば下の空欄にお書きください。
ご意見:

今回のアンケートは、対象者が1名ということもあり、本人の性格・資質に大きく影響を受けており、参考にすべきかは、貴科にてご判断願う。

※大学院の問題ではないが、中高の基礎学力(特に、理・数)に不足を感じる。

英語力はあればある方が良いですが、私は表現力の一つと考えていますので、英語が出来なければ出来ないなりに苦労はしますが結果は出せると思っています。

ものの考え方も大学で教えてもらったことが基礎になるとと思いますが、現場で経験を積んで試行錯誤すること大切な基礎になると考えます。

それよりもものごとに対して取りくむ姿勢が大切と考えます。何ごとにも積極的に取り組むことでいろいろな経験を積み、人としての成長を含めて成長してくれるものと思いますので、好奇心を持たせる、その先に何か期待が待っているぞと思われる様な気持ちを持たせる様な教育をこれからもお願い致します。

今後、海外とのつき合いをしながらビジネスを広げていく時代になっていくと思います。

日本の文化を根幹にしっかりと持った上で、相手国(海外)の文化を受け入れる幅の広い人材が求められていく事に成ります。

是非、国際的視野を持つ学生を輩出して頂けます様に御指導の程、御願い申し上げます。

・TOEIC は 500 点以上はエンジニアも必要です。

・製造では統計学の知識も必要になります。

特に茨城大学大学院理工学研究科様に特徴的に言える事ではなく、一般的にですが「問 11」に関して課題を見つけ、解決するには、現場で発生している現象を良く観察し、理解する能力が求められます。

この能力の弱さを感じます。自動的にすい上げられた PC 中のデーターのみを解析し、全ての現象を理解した気になっている傾向があり、これでは、現象を理解する事には、つながりません。特に工場では、物を設備と、人の関わりの中で現象を理解する事が必要であり、現物で現象を良く観察し、理解する能力を求めますが、観察する能力に弱さを感じます。

企業を取り巻く環境が大きく変わっている中、研究開発も新たな視点から取り組むことが必要です。そのためには研究開発に対して受け身で取り組むのではなく、新たなアプローチ、新たな研究テーマを自ら提案できる積極性や意識を大学院修業期間に養っていただければと思います。

また私共の研究室も米国や欧州企業と共同開発を行うなど、昨今はグローバル化が急速に進んでいます。貴学修了生が社会に出て一層活躍するためにも語学の習熟度を高める取組みを期待致します。

今後とも宜しくお願い致します。

理念や目的について、100%同意しますが、これにくわえて、目の前で起こっている現象を本質的に理解し、平易な言葉で説明できる能力を身に付けられるような教育を期待します。

20 代後半で 5 人くらい対象者がいるため、平均的に評価しました。もちろん、人によって異なります。

努力家/コミュニケーションを図る力は、高いと思うのですが創造して、リーダーシップを図るタイプが少ないことから一部厳しめのアンケートとなっています。ご容赦願います。今後も人材育成宜しくお願いします。

特に海外相手だとリーダーシップがなければ動かせません。

インターンシップ等で企業での研修は実施されているのでしょうか。

社会における技術者の役割を認識する上でも、入社される前に企業で研修することは意味があると考えます。

必ずしも専門分野の業務になるとは限りません。異なる分野が多いと思います。

しかし、本人の努力で、経験を重ねると解決するものと考えます。

お願いとして、協調性の有る人材、誰とでもコミュニケーションのできる人材を育成してほしいことです。

技術者としての前に人として信頼できる人格育成を希望致します。

社会に出てから必要とされる能力として、貴校の教育研究理念にもある

「知識を体系的に組み立てながら、問題を解決・評価する」ことが最も重要と考えます。

引き続き問題解決、判断に必要な物に対する考え方の教育に御尽力頂きます様よろしくお願い致します。

- ・理念は素晴らしいと思いますので、それに沿った人材を多く育成し、社会に送り出して頂きたいと思います。
- ・問題解決能力に必要な力として、企業が求める要素として、「やる気」「協調性」「能力」の3点が重要と思います。

最近の若手に不足している事は、やる気、チャレンジしようという意欲が感じられない事、

これは企業側の動機付けも足りないのかもしれませんが、元気で、ねばり強く、最後までやり抜く力を身につけさせて頂きたいと思います。

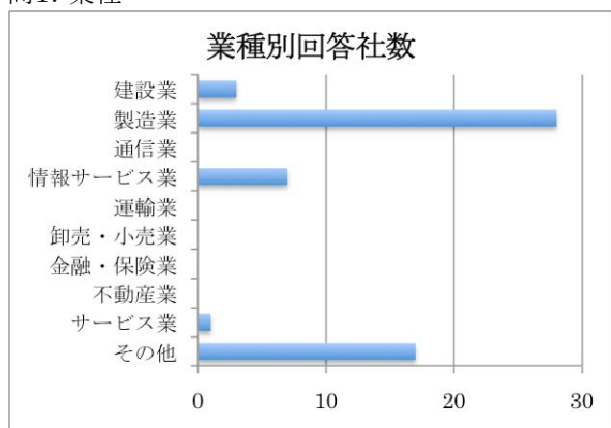
企業が大学院卒生に求めるものは、「将来のリーダ層になりえる人材」が多いと思います。知識(専門的)力はあるが、マネジメントは不得手の方が多い、教育課目等にマネジメント力 up に関するものがあると良いと思います。弊社に限らず、メンタル的にも弱く、コミュニケーション力も弱い傾向にある様です。一企業に留まらず、日本全体が、その傾向にあり、将来が不安です。

キーワードとして、「マネジメント」「メンタル」、「コミュニケーション」の3点を補う教育を希望致します。乱筆にて失礼致しました。

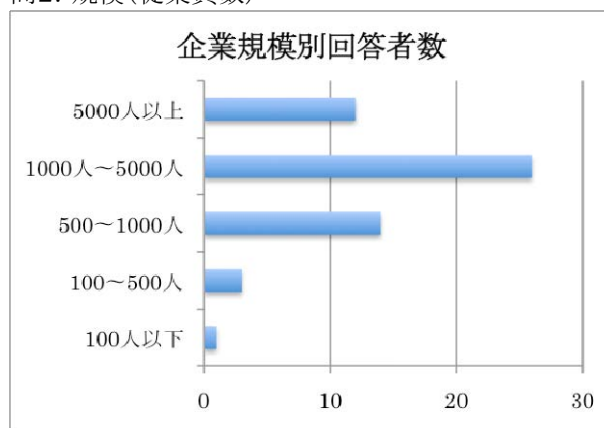
企業アンケート 回答集計のグラフ表記

A あなたの会社についてお答えください。

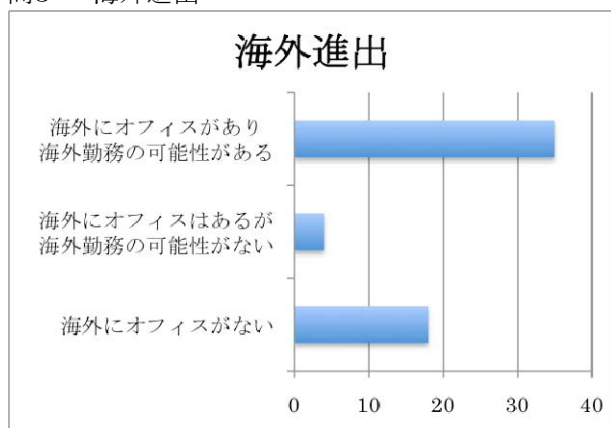
問1. 業種



問2. 規模(従業員数)

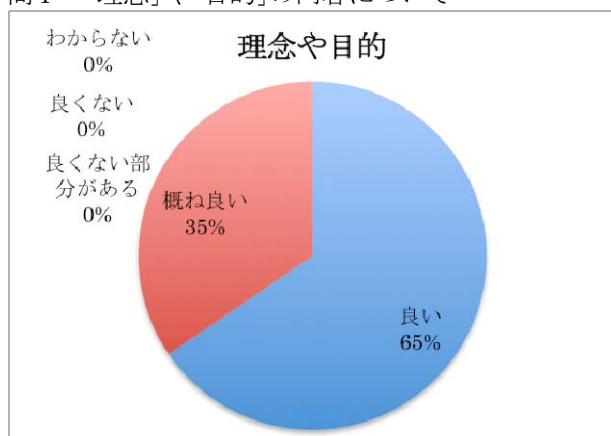


問3 海外進出



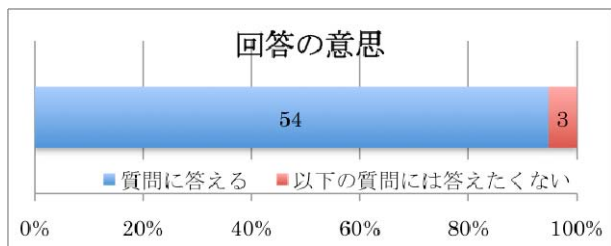
B 茨城大学大学院理工学研究科は、次の教育研究理念のもと3つの目的の内容について

問4 「理念」や「目的」の内容について

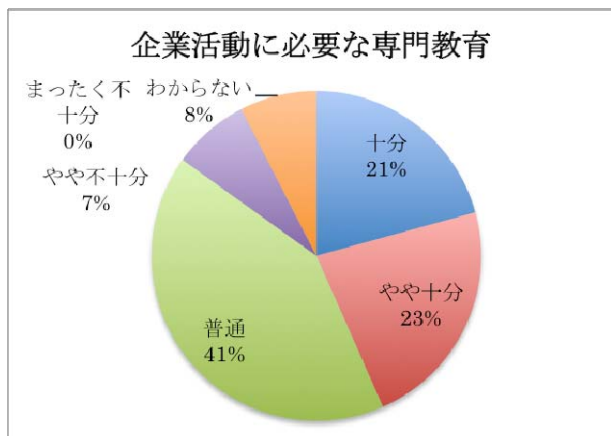


C 以下に、貴社、貴事業部に配属されている茨城大学大学院理工学研究科修士についてご意見を伺います。

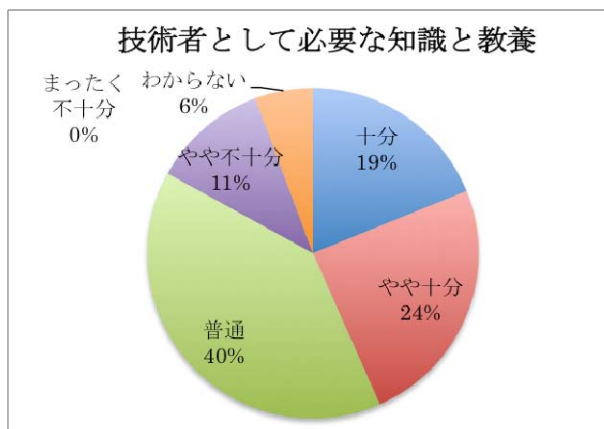
問5 以降の質問(問6～問20)にお答えいただけるでしょうか。



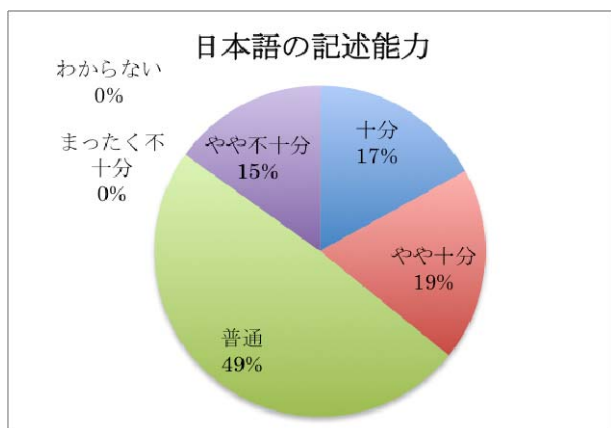
問6. 茨城大学大学院修士は、企業における活動に必要な工学専門教育を受けているとお考えですか。



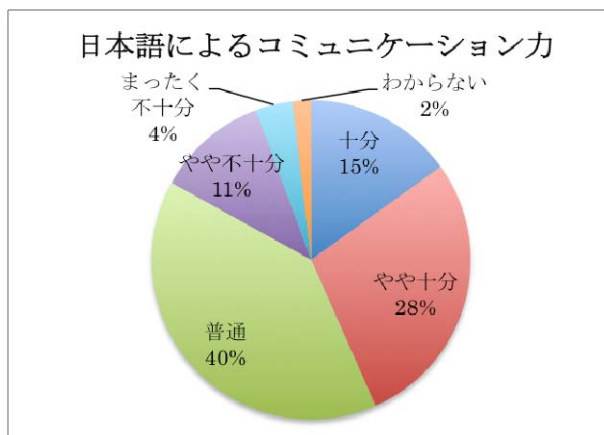
問7. 茨城大学大学院修士は、技術者として必要な幅広い知識と教養を身につけているとお考えですか。



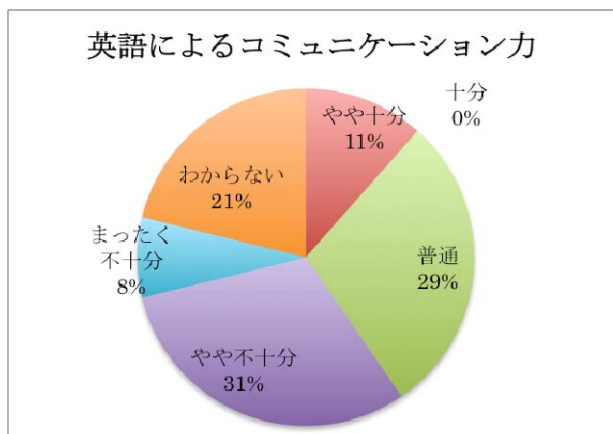
問8. 茨城大学大学院修士は、日本語による論理的な記述能力を身につけているとお考えですか。



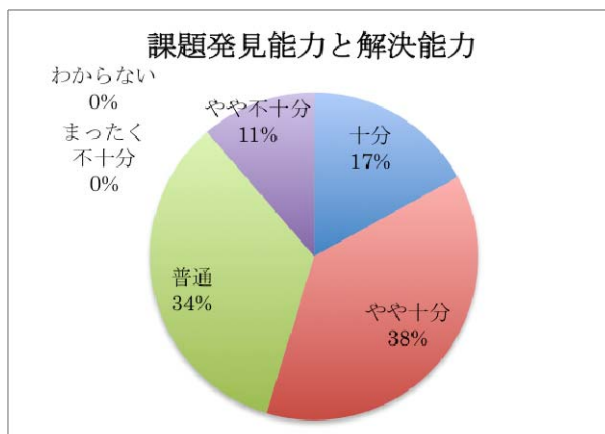
問9. 茨城大学大学院修士は、日本語による口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力を身につけているとお考えですか。



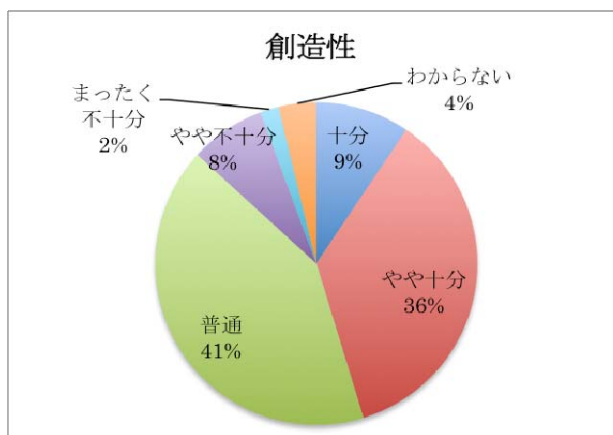
問10. 茨城大学大学院修了生は、英語のコミュニケーション能力を身につけているとお考えですか。



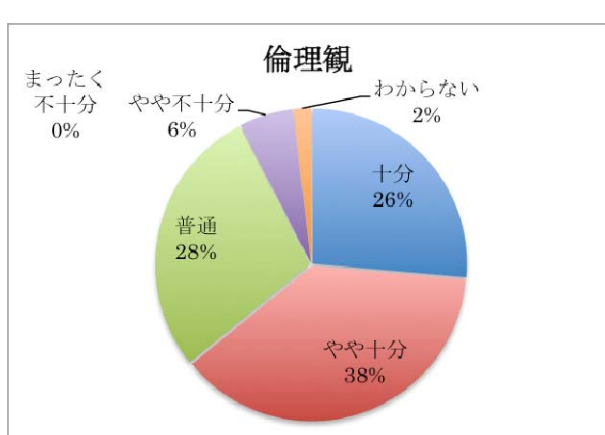
問11. 茨城大学大学院修了生は、課題を見つけ解決する能力を身につけているとお考えですか。



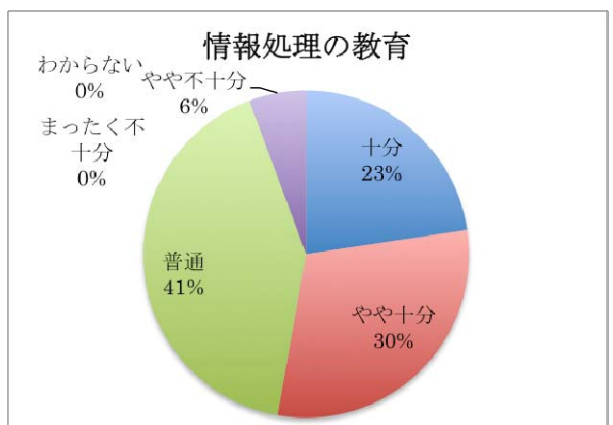
問12. 茨城大学大学院修了生は、担当業務に携わるのに必要な創造性を身につけているとお考えですか。



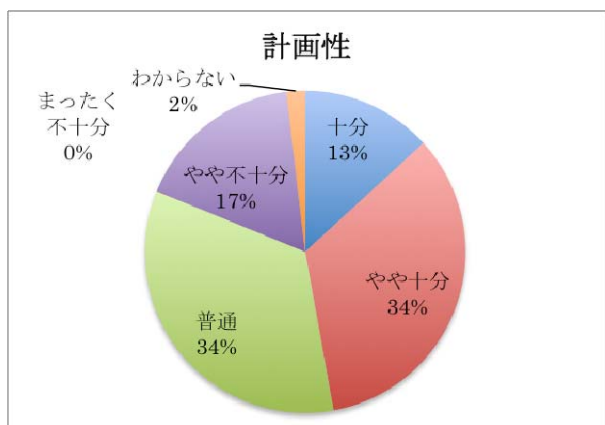
問13. 茨城大学大学院修了生は、技術者として必要な倫理観を身につけているとお考えですか。



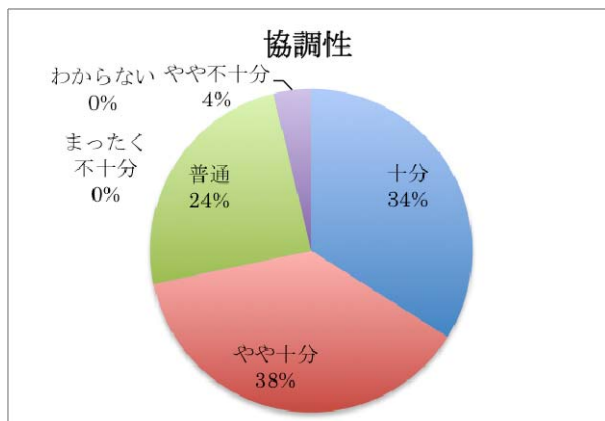
問14. 茨城大学大学院修了生は、企業における活動に必要な情報処理の基礎教育を受けているとお考えですか。



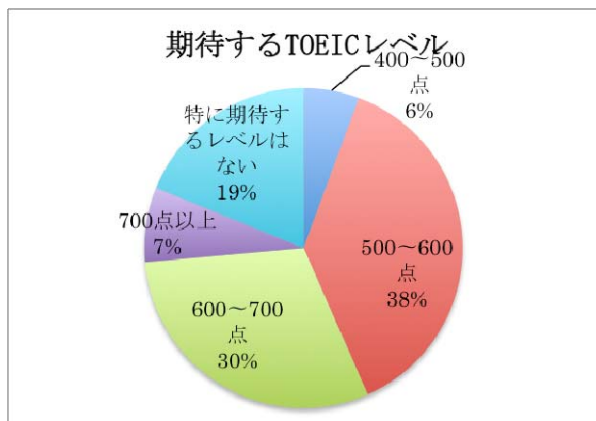
問15. 茨城大学大学院修了生は、計画的に仕事を進めまとめる能力を身につけているとお考えですか。



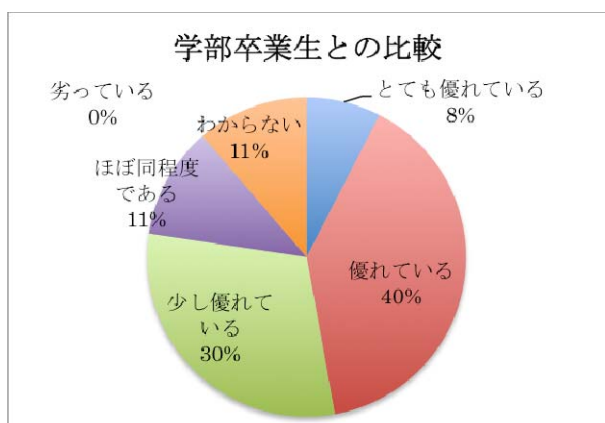
問16. 茨城大学大学院修了生は、企業における活動で良好な対人関係を保ち協調性を発揮しているとお考えですか。



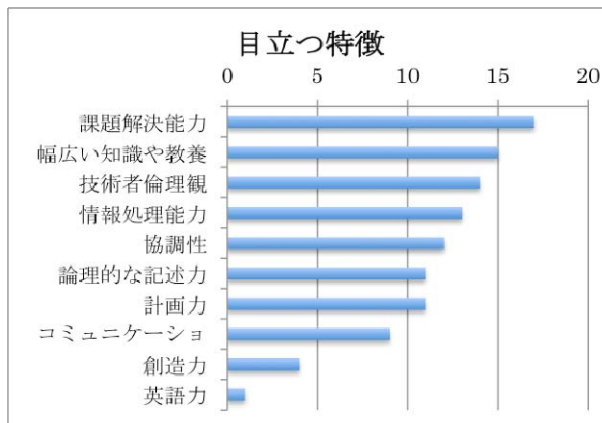
問17. 茨城大学大学院修了生に期待する TOEIC の点数は次のどのレベルでしょうか。



問18. 茨城大学大学院修了生は学部卒業生と比較して、次のどのレベルに当たるでしょうか。



問19. 前問の比較で違いが目立つ特徴を全てチェックして下さい。



修了生アンケート 質問および回答票

以下の質問項目(問1～31)について、お答えください。該当するものの□にチェック(✓)してください。

A. 修了年次、専攻についてお答えください。

問1 修了年次

☐平成 22 年度 ☐平成 21 年度 ☐平成 20 年度 ☐平成 19 年度 ☐平成 18 年度 ☐平成 17 年度以前

問2 出身専攻

☐機械工学 ☐物質工学 ☐電気電子工学 ☐メディア通信工学 ☐情報工学
☐都市システム工学 ☐知能システム/システム工学 ☐応用粒子線科学

	H22	H21	H20	H19	H18	H17	合計
機械工学	2	1	1	6	2	0	13
物質工学	4	1	3	2	2	0	12
電気電子工学	4	2	1	1	2	0	10
メディア通信工学	1	1	0	2	1	1	6
情報工学	0	1	2	1	2	0	6
都市システム工学	6	3	2	3	1	0	15
知能システム/システム工学	4	3	2	2	0	0	11
応用粒子線科学	2	1	1	3	0	1	8
合計	23	13	12	20	10	2	81

機械工学専攻修了年次不明者1名

B. あなたの現在の就職先、進学先についてお答えください。

問3 就職・進学

☐就職 ☐博士後期進学後就職 ☐博士後期在学中 ☐その他[]

就職	81	博士後期進学後就職	0	博士後期在学中	0	その他	0
----	----	-----------	---	---------	---	-----	---

現在、就職されている方は次の問4～7にもお答えください。そうでない方は、C(問8)へお進みください。

問4 業種

☐建設業 ☐製造業 ☐通信業 ☐情報サービス業 ☐運輸業 ☐卸売・小売業
☐金融・保険業 ☐不動産業 ☐サービス業 ☐公務 ☐その他

	建設	製造	通信	情報 サービス	運輸	卸売 ・小売	金融 ・保険	不動 産	サービス	公務	その他
機械工学	0	8	0	0	0	0	0	0	0	1	4
物質工学	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	3
電気電子工学	0	9	0	0	0	1	0	0	0	0	0
メディア通信工学	0	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0
情報工学	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	1
都市システム工学	7	2	0	1	0	0	0	0	2	2	1
知能システム /システム工学	0	9	0	1	0	0	0	0	0	0	1
応用粒子線科学	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	8	48	1	4	1	1	0	0	2	3	12

問5 企業に就職された方はその規模(従業員数)

☐ 100 人以下 ☐ 100～500 人 ☐ 500～1000 人 ☐ 1000～5000 人 ☐ 5000 人以上

	100 人以下	100～500 人	500～1000 人	1000～5000 人	5000 人以上
機械工学	0	0	1	9	3
物質工学	0	2	5	4	1
電気電子工学	0	0	0	6	4
メディア通信工学	0	0	0	4	2
情報工学	0	1	3	2	0
都市システム工学	0	0	4	8	1
知能システム／システム工学	0	1	3	4	3
応用粒子線科学	0	0	0	4	4
合計	0	4	16	41	18

問6 職種

☐ 営業系 ☐ 企画/事務系 ☐ 専門職(コンサルタント/金融/不動産/流通)

☐ 技術系(研究開発) ☐ 技術系(生産技術) ☐ 技術系(品質管理) ☐ 技術系(その他)

☐ クリエイティブ系 ☐ 販売/サービス系 ☐ その他(教師/公務員等)

	営業系	企画/事務系	専門職	技術系(研究開発)	技術系(生産技術)	技術系(品質管理)	技術系(その他)	クリエイティブ系	販売/サービス系	その他
機械工学	0	1	0	4	3	1	3	0	0	0
物質工学	0	0	0	4	3	1	3	0	0	0
電気電子工学	0	0	0	7	0	1	2	0	0	0
メディア通信工学	0	0	0	4	2	0	0	0	0	0
情報工学	0	0	0	4	1	0	1	0	0	0
都市システム工学	0	0	3	1	2	2	5	0	0	2
知能システム／システム工学	0	0	0	3	5	0	3	0	0	0
応用粒子線科学	0	0	0	5	2	0	1	0	0	0
合計	0	1	3	32	18	5	18	0	0	2

問7 海外進出

☐ 海外にオフィスがあり海外勤務の可能性がある ☐ 海外にオフィスがあるが海外勤務の可能性がない

☐ 海外にオフィスがない

	海外にオフィスがあり海外勤務の可能性はある	海外にオフィスがあるが海外勤務の可能性がない	海外にオフィスがない
機械工学	9	1	3
物質工学	6	1	5
電気電子工学	9	0	1
メディア通信工学	5	0	1
情報工学	2	1	3
都市システム工学	10	1	2
知能システム／システム工学	8	1	2
応用粒子線科学	5	3	0
合計	54	8	17

C 茨城大学大学院理工学研究科は、次の教育研究理念のもと3つの目的を掲げています。
これらの内容についてどうお考えですか、次頁の問8の質問にお答えください。

- 理念 自然や人間社会に対する深い洞察と高度な専門実践能力をもち、自然を探究して知識を体系的に組み立てながら問題を解決・評価することができる人材を育成する。また、世界レベルの学術研究を推進して社会に発信し、自然環境と調和した地域と人間社会の持続的発展に貢献する。
- 目的(1) 多様な科学的創造能力と問題解決能力を養成する教育研究プログラムにより、幅広い学際的視野と深い専門知識を修得させ、事象への探求心並びに創造性と実行力を併せもつ高度専門技術者・研究者を育成する。
- 目的(2) 科学技術分野において、地域の特色を活用して、国際的・学際的な視野に立った先進的・開拓的な研究を推進し、世界レベルの研究拠点を形成する。
- 目的(3) 教育・研究成果を積極的に地域や社会に還元して産業・文化・学術の発展に寄与する。

問8 「理念」や「目的」の内容について

- ☐ 良い ☐ 概ね良い ☐ 良くない部分がある ☐ 良くない ☐ わからない
「良くない部分がある」、「良くない」と考える理由をご記入ください。

	良い	概ね良い	良くない 部分がある	良くない	わからない
機械工学	4	7	1	0	1
物質工学	5	7	0	0	0
電気電子工学	5	4	0	0	1
メディア通信工学	1	5	0	0	0
情報工学	4	2	0	0	0
都市システム工学	3	11	1	0	0
知能システム／システム工学	1	6	2	0	2
応用粒子線科学	2	6	0	0	0
合計	25	48	4	0	4

難しい言い回しをしている。

理念は難しい言葉を使っても良いと思うが、目的は簡単な誰にでも分かる言葉を使った方が良い。目的には具体性を持たせた方が良い。

1つ1つが長い。覚えやすいように短い文で表せないだろうか？

→学生個人への目的・目標でなく、「学校」の目的ですね…。”

「深い専門知識」とあるが、知能システムには当てはまらないと感じる。広く浅く学んでいると思う。全専攻で共通の理念であるべき。

また、自然という言葉を使い過ぎていると感じる。

“自然”と書いている箇所を“地球”とした方が良いのではないか。

“世界”というキーワードをいくつも用いているので、よりグローバルな視点の言葉の方が良いと思う。

D. 以下にあなたが茨城大学大学院で受けた教育についてのご意見を伺います。

問9 あなたが茨城大学大学院で受けた専門教育は、十分であったとお考えですか。

☐ 十分であった
 ☐ やや十分であった
 ☐ 普通
 ☐ やや不十分であった
 ☐ 不十分であった
 ☐ わからない

	十分	やや十分	普通	やや不十分	不十分	わからない
機械工学	2	3	5	2	0	1
物質工学	2	1	4	4	1	0
電気電子工学	1	4	2	1	2	0
メディア通信工学	0	3	0	3	0	0
情報工学	2	1	3	0	0	0
都市システム工学	0	9	5	1	0	0
知能システム／システム工学	0	2	4	4	1	0
応用粒子線科学	1	3	4	0	0	0
合計	8	26	27	15	4	1

問10 あなたが茨城大学大学院で受けた大学院教育における基礎と応用のバランスはいかがでしたか。

☐ 基礎に偏りすぎ
 ☐ 基礎に偏りすぎ
 ☐ 普通
 ☐ 応用に偏りすぎ
 ☐ 応用に偏りすぎ
 ☐ わからない

	基礎に偏りすぎ	基礎に偏りすぎ	普通	応用に偏りすぎ	応用に偏りすぎ	わからない
機械工学	0	2	9	1	0	1
物質工学	2	0	5	4	0	1
電気電子工学	0	3	6	1	0	0
メディア通信工学	0	2	3	1	0	0
情報工学	0	1	2	2	0	1
都市システム工学	0	2	13	0	0	0
知能システム／システム工学	0	6	3	0	0	2
応用粒子線科学	0	0	4	3	0	1
合計	2	16	45	12	0	6

問11 あなたが茨城大学大学院で受けた実践的教育(企業実務を模擬した教育やインターンシップなど)は、十分であったとお考えですか。

☐ 十分であった
 ☐ やや十分であった
 ☐ 普通
 ☐ やや不十分であった
 ☐ 不十分であった
 ☐ わからない

	十分	やや十分	普通	やや不十分	不十分	わからない
機械工学	1	1	3	2	4	2
物質工学	1	2	1	3	5	0
電気電子工学	0	1	2	1	5	1
メディア通信工学	0	2	1	1	2	0
情報工学	0	2	1	2	0	1
都市システム工学	6	2	3	4	0	0
知能システム／システム工学	1	0	1	5	3	1
応用粒子線科学	1	0	1	3	2	1
合計	10	10	13	21	21	6

問12 あなたの就職に際し、大学院教育は役に立ちましたか。

☐役に立った ☐やや役に立った ☐普通 ☐あまり役に立たなかった ☐役に立たなかった ☐わからない

	役に立った	やや役に立った	普通	あまり役に立たなかった	役に立たなかった	わからない
機械工学	2	7	2	1	1	0
物質工学	3	3	2	4	0	0
電気電子工学	2	7	0	0	1	0
メディア通信工学	1	3	0	2	0	0
情報工学	2	1	1	1	1	0
都市システム工学	9	3	2	1	0	0
知能システム／システム工学	3	3	3	2	0	0
応用粒子線科学	2	3	1	2	0	0
合計	24	30	11	13	3	0

問13 あなたの現在の仕事に、大学院教育は役に立ちましたか。

☐役に立った ☐やや役に立った ☐普通 ☐あまり役に立たなかった ☐役に立たなかった ☐わからない

	役に立った	やや役に立った	普通	あまり役に立たなかった	役に立たなかった	わからない
機械工学	3	4	4	1	1	0
物質工学	2	5	1	4	0	0
電気電子工学	1	6	1	2	0	0
メディア通信工学	0	2	2	2	0	0
情報工学	1	2	2	1	0	0
都市システム工学	5	5	3	1	0	1
知能システム／システム工学	0	2	4	4	0	1
応用粒子線科学	1	3	1	2	0	1
合計	13	29	18	17	1	3

問14 講義のレベルは適切でしたか。

☐易しすぎた ☐やや易しすぎた ☐普通 ☐やや難しすぎた ☐難しすぎた ☐わからない

	易しすぎた	やや易しすぎた	普通	やや難しすぎた	難しすぎた	わからない
機械工学	3	4	4	1	1	0
物質工学	2	5	1	4	0	0
電気電子工学	1	6	1	2	0	0
メディア通信工学	0	2	2	2	0	0
情報工学	1	2	2	1	0	0
都市システム工学	5	5	3	1	0	1
知能システム／システム工学	0	2	4	4	0	1
応用粒子線科学	1	3	1	2	0	1
合計	13	29	18	17	1	3

問15 教育の環境、教育設備等は適切でしたか(受講人数、教室の広さ、教室の設備、冷暖房など)。

☐適切であった ☐やや適切であった ☐普通 ☐やや不適切であった ☐不適切であった ☐わからない

	適切	やや適切	普通	やや不適切	不適切	わからない
機械工学	4	0	5	4	0	0
物質工学	2	0	3	6	1	0
電気電子工学	3	2	4	0	1	0
メディア通信工学	2	1	1	2	0	0
情報工学	3	1	2	0	0	0
都市システム工学	4	1	4	5	1	0
知能システム／システム工学	0	3	3	4	1	0
応用粒子線科学	1	2	3	2	0	0
合計	19	10	25	23	4	0

問16 教員の講義に対する取り組みは適切でしたか。

☐適切であった ☐やや適切であった ☐普通 ☐やや不適切であった ☐不適切であった ☐わからない

	適切	やや適切	普通	やや不適切	不適切	わからない
機械工学	2	4	4	2	0	0
物質工学	1	1	6	2	0	2
電気電子工学	4	2	1	2	1	0
メディア通信工学	0	2	4	0	0	0
情報工学	1	4	1	0	0	0
都市システム工学	3	7	5	0	0	0
知能システム／システム工学	1	3	5	2	0	0
応用粒子線科学	2	2	3	1	0	0
合計	14	25	29	9	1	2

問17 カリキュラムは時代の要請に即していましたか。

☐即していた ☐やや即していた ☐普通 ☐やや時代遅れだった ☐時代遅れだった ☐わからない

	即していた	やや即していた	普通	やや時代遅れ	時代遅れ	わからない
機械工学	1	1	9	1	0	1
物質工学	1	2	6	3	0	0
電気電子工学	1	2	5	1	0	1
メディア通信工学	1	0	2	2	0	0
情報工学	1	2	2	1	0	0
都市システム工学	2	4	6	2	0	1
知能システム／システム工学	0	4	6	1	0	0
応用粒子線科学	1	2	4	0	0	1
合計	8	17	40	11	0	4

問18 受講したかった分野で開講されていなかったものはありましたか。あったという方は例を記して下さい。

☐たくさんあった ☐結構あった ☐いくつかあった ☐少しはあった ☐なかった ☐わからない

	たくさん あった	結構 あった	いくつか あった	少しは あった	なかった	わからない
機械工学	0	0	0	3	8	2
物質工学	0	1	2	0	4	4
電気電子工学	0	1	0	0	5	4
メディア通信工学	0	0	1	2	1	2
情報工学	0	0	0	1	2	3
都市システム工学	0	0	3	2	5	5
知能システム／システム工学	0	0	4	0	5	2
応用粒子線科学	0	0	0	2	4	2
合計	0	2	10	10	34	24

機械工学	自然エネルギー，設計・ものづくり(製図ではなく)
物質工学	細胞生物学分野，製図・機械系の授業
都市システム工学	流体に関する講義
知能システム/システム工学	実習形式の講義をもっと開講して欲しかった，熱力学・流体力学，プログラミング(VB, VC++, VC#など)

問19 講義は知的好奇心を満たすものでしたか。

☐満たした ☐やや満たした ☐普通 ☐やや満たさなかった ☐満たさなかった ☐わからない

	満たした	やや 満たした	普通	やや満た さなかった	満たさな かった	わからない
機械工学	0	8	3	2	0	0
物質工学	1	2	5	3	1	0
電気電子工学	0	3	7	0	0	0
メディア通信工学	1	1	2	2	0	0
情報工学	3	2	0	1	0	0
都市システム工学	2	8	3	2	0	0
知能システム／システム工学	0	5	3	3	0	0
応用粒子線科学	2	2	3	1	0	0
合計	9	31	26	14	1	0

問20 日本語による論理的記述能力に関する教育は十分でしたか。

☐十分であった ☐やや十分であった ☐普通 ☐やや不十分であった ☐不十分であった ☐:わからない

	十分	やや十分	普通	やや 不十分	不十分	わからない
機械工学	0	8	3	2	0	0
物質工学	1	2	5	3	1	0
電気電子工学	0	3	7	0	0	0
メディア通信工学	1	1	2	2	0	0
情報工学	3	2	0	1	0	0
都市システム工学	2	8	3	2	0	0
知能システム／システム工学	0	5	3	3	0	0
応用粒子線科学	2	2	3	1	0	0
合計	9	31	26	14	1	0

問21 日本語による口頭発表能力や討論などのコミュニケーション能力を身につけることができましたか。

☐大いにできた ☐結構できた ☐いづらかできた ☐少しできた ☐できなかった ☐わからない

	大いに できた	結構 できた	いづらか できた	少し できた	できな かった	わからない
機械工学	1	1	8	1	2	0
物質工学	0	2	3	1	4	2
電気電子工学	0	0	7	3	0	0
メディア通信工学	0	1	0	5	0	0
情報工学	0	3	1	2	0	0
都市システム工学	2	2	4	7	0	0
知能システム／システム工学	0	3	2	4	2	0
応用粒子線科学	1	1	3	1	2	0
合計	4	13	28	24	10	2

問22 英語の教育は十分でしたか。

☐十分であった ☐やや十分であった ☐普通 ☐やや不十分であった ☐不十分であった ☐:わからない

	十分	やや十分	普通	やや 不十分	不十分	わからない
機械工学	1	1	3	2	6	0
物質工学	1	2	3	2	4	0
電気電子工学	0	0	2	3	5	0
メディア通信工学	0	0	0	2	4	0
情報工学	1	0	1	3	1	0
都市システム工学	0	1	1	6	7	0
知能システム／システム工学	0	0	2	3	6	0
応用粒子線科学	0	0	1	3	4	0
合計	3	4	13	24	37	0

問23 修士研究に充てる時間数は十分でしたか。

☐十分であった ☐やや十分であった ☐普通 ☐やや不十分であった ☐不十分であった ☐:わからない

	十分	やや十分	普通	やや 不十分	不十分	わからない
機械工学	8	3	2	0	0	0
物質工学	4	3	3	1	1	0
電気電子工学	3	1	6	0	0	0
メディア通信工学	0	2	4	0	0	0
情報工学	3	1	2	0	0	0
都市システム工学	7	5	1	2	0	0
知能システム／システム工学	3	1	3	2	1	1
応用粒子線科学	1	3	4	0	0	0
合計	29	19	25	5	2	1

問24 修士研究のための設備や研究室スペースは十分でしたか。

☐十分であった ☐やや十分であった ☐普通 ☐やや不十分であった ☐不十分であった ☐:わからない

	十分	やや十分	普通	やや不十分	不十分	わからない
機械工学	7	3	0	2	1	0
物質工学	1	3	3	1	4	0
電気電子工学	4	3	2	0	1	0
メディア通信工学	1	4	1	0	0	0
情報工学	3	0	1	2	0	0
都市システム工学	6	2	2	3	2	0
知能システム／システム工学	3	2	1	3	1	0
応用粒子線科学	1	2	2	3	0	0
合計	26	19	12	14	9	0

問25 修士研究における教員の指導状況は適切でしたか。

☐適切であった ☐やや適切であった ☐普通 ☐やや不適切であった ☐不適切であった ☐わからない

	適切	やや適切	普通	やや不適切	不適切	わからない
機械工学	6	4	2	1	0	0
物質工学	3	3	2	0	3	1
電気電子工学	6	2	1	1	0	0
メディア通信工学	1	3	1	1	0	0
情報工学	2	1	2	1	0	0
都市システム工学	8	3	3	1	0	0
知能システム／システム工学	4	4	1	0	2	0
応用粒子線科学	5	2	1	0	0	0
合計	35	22	13	5	5	1

問26 計画的に仕事を進める能力を身につけることができましたか。

☐大いにできた ☐結構できた ☐いくらかできた ☐少しできた ☐できなかった ☐わからない

	大いにできた	結構できた	いくらかできた	少しできた	できなかった	わからない
機械工学	1	3	5	2	1	1
物質工学	1	2	2	4	2	1
電気電子工学	0	1	3	5	1	0
メディア通信工学	0	1	0	5	0	0
情報工学	0	1	3	2	0	0
都市システム工学	1	6	5	3	0	0
知能システム／システム工学	0	2	4	3	1	1
応用粒子線科学	1	4	2	1	0	0
合計	4	20	24	25	5	3

問27 チームを組んで良好な対人関係を保ちながら仕事を進める能力を身につけることができましたか。

☐大いにできた ☐結構できた ☐いづらかできた ☐少しできた ☐できなかった ☐わからない

	大いに できた	結構 できた	いづらか できた	少し できた	できな かった	わからない
機械工学	2	4	5	2	0	0
物質工学	1	1	2	3	3	2
電気電子工学	0	2	3	5	0	0
メディア通信工学	0	3	1	2	0	0
情報工学	1	1	0	3	0	1
都市システム工学	5	5	4	1	0	0
知能システム／システム工学	2	0	4	4	1	0
応用粒子線科学	3	2	2	1	0	0
合計	14	18	21	21	4	3

問28 技術者として必要な倫理観を身につけることができましたか。

☐大いにできた ☐結構できた ☐いづらかできた ☐少しできた ☐できなかった ☐わからない

	大いに できた	結構 できた	いづらか できた	少し できた	できな かった	わからない
機械工学	2	4	5	2	0	0
物質工学	1	1	2	3	3	2
電気電子工学	0	2	3	5	0	0
メディア通信工学	0	3	1	2	0	0
情報工学	1	1	0	3	0	1
都市システム工学	5	5	4	1	0	0
知能システム／システム工学	2	0	4	4	1	0
応用粒子線科学	3	2	2	1	0	0
合計	14	18	21	21	4	3

問29 これからの技術者に必要なグローバルな視点から物事を見る能力を養うことができましたか。

☐大いにできた ☐結構できた ☐いづらかできた ☐少しできた ☐できなかった ☐わからない

	大いに できた	結構 できた	いづらか できた	少し できた	できな かった	わからない
機械工学	1	2	3	3	3	1
物質工学	0	1	2	4	4	1
電気電子工学	0	0	1	5	3	1
メディア通信工学	0	0	1	3	2	0
情報工学	0	1	2	2	0	1
都市システム工学	2	3	5	4	0	1
知能システム／システム工学	0	0	4	3	2	2
応用粒子線科学	0	1	0	4	2	1
合計	3	8	18	28	16	8

問30 大学院の教育・研究の大学学部教育・研究からのつながりは良かったですか。

☐良かった ☐まあ良かった ☐普通 ☐少し悪かった ☐悪かった ☐わからない

	良かった	まあ 良かった	普通	少し 悪かった	悪かった	わからない
機械工学	1	2	3	3	3	1
物質工学	0	1	2	4	4	1
電気電子工学	0	0	1	5	3	1
メディア通信工学	0	0	1	3	2	0
情報工学	0	1	2	2	0	1
都市システム工学	2	3	5	4	0	1
知能システム／システム工学	0	0	4	3	2	2
応用粒子線科学	0	1	0	4	2	1
合計	3	8	18	28	16	8

問31 茨城大学大学院の教育にご意見のある方は、裏面の空欄にご記入ください。

ご意見：

【機械工学】

単に研究しているだけの生活で、「何を目的・目標に」「どんな手段で」「何を得たいか」が明確でなかった。また、「手段」のツールとして、設備や治具等を”自分”で設計、作製し、研究するステップが欲しかった。特に「納期、いつまでに」を意識させて…(問 26 に関する) (問 11 も “ ”)

問29については…

各文野において、茨城大学や他大学の Lv がどこにあり、どこを目指す(べき)か明確化されていない気がします。「グローバルな視点」とは何ですか？

茨城大学、大学院の教育を通して、英語に関する教育、講義が少なかったように思います。”

学生が自ら考え、主体的に取り組む講義が多くあっても多いと思う。

【物質工学】

現在はどうか分からないが、全体の教育の方向性がみられなかった。

個別の授業は良くても、物質工学として総合的なつながりが見出せなかったのが残念。

大学院は自分で取捨選択して学習していく場ではあるが、専門性が高すぎるなど、他分野とのつながりが見えなければ、せつかくの知識が断片化してしまうと思う。

又、知識偏重の嫌いがあるように感じられた。何か目的達成型の授業があってもいいのではないだろうか。

最後に、大学院教育の礎となる大学教育も不足がみられるのではないかと感じた。

研究に費やす時間は十分にあったため、研究分野に関する知識・技術に関しては身に付けることができました。

しかし、他の分野に関しては、専門的すぎる事もあり、単位は取ったものの、身についていない気がします。他の分野に関しても知識を習得しておけば、もう少し視野も変わったのかなと思う部分もあります。

国際化を目指しているわりに英語を使う講義が少なかった気がします。”

就職活動においては、高い「専門性」を求められるが、会社に入ると、「多様性」を求められる。

「専門性」と「多様性」は相反するものなので、バランスを取るのが難しいと思うが、大学院のみならず、大学においても、カリキュラムを考えて欲しい。

【電気電子工学】

私が在籍していた時、外部参加可能なセミナーや一般企業との共同研究などを紹介する機会があり、大変勉強になった。ぜひ、このような方向でのカリキュラムを継続してほしいと思う。
また、社会に出ると英語を使う頻度が増えるので、より実践的な講義が大学院でもあれば良いと思った。”

講義の内容は難しく、レポートが簡単である。もう少しバランスをとって欲しい。”

学部のあるところの実習を改善するか、大学院の教育課程で応用的な電気電子の実験の講座があると良いと思った。

ご指導ありがとうございました。

【メディア通信工学】

教育研究理念の目的(3)にあるように、教育・研究成果を還元することを望むが、大学院の講義中に、具体的にその分野が、どのような産業・文化・学術の発展に寄与するのかが伝わってこなかったので、その点を改善することで、学生の知的好奇心をくすぐり、より良い教育となることを望みます。

教育の1つとして、インターンシップ以外にも企業との協同研究・開発を積極的に取り入れるとよいと思う。
理由は、企業側は顧客のニーズに合わせた研究・開発をしていて、大学内では見えない部分が多くある。
また、企業側は即戦力を求める傾向があるので、つながりがあることで、大学の技術を買ってくれる(人材を確得してくれる)。
ほとんどの学生は企業に就職するので、企業と密につながりをつけてほしい。そうすれば、学生のやる気や学生生活の充実度が上がるはず。

ただ受講して説明を聞くというよりも、実験する、課題を見つける、改善させるといった教育を自身のテーマ以外の講義でも行えたらいいと思います。
仕事をしていると自身で考える力が必要だと感じており、課題に対して不明なところを教員に教えてもらおうといった方が本人のためになるかと思います。ベースとなる知識をあたえるのはもちろんとして、本人の学ぶ意識がもっとも重要です。
私も後悔がある一人です。

【情報工学】

専攻以外の分野の講義を受けやすい環境を構築してほしい。

【都市システム工学】

専門図書等の書籍が古く、最新のものが少ない。

土木工学だけでなく、建築の内容にも触れることができるカリキュラムになっていることは良いと思います。

研究設備や教育の対応も十分であったが、生協や図書館のサービスが非常に悪かった。
一番忙しい卒論発表会や、夏期休業中も夜まで生協開いて欲しい。
図書館の自習スペース、寒かった。

大学院における英語の教育が不十分であり、今後グローバル化が進む社会でも通用できるような能力を身につける時間を設けるべきだと思う。
また、コミュニケーション能力を身につけるため、ディスカッションを行う場やグループワークを行える場を作り社会に出ても対応できるようにした方が良いと思う。”

大学院に限らずですが、英語教育だったり、海外との文化・考え方の違いなどに触れる機会がもう少しあればと思っております。

地方大学という事で他大学との交流が限定されてしまう所がある。

研究室単位では、幅広く他大学と交流している所もあるが、全体としては、小さなコミュニティの中でしか生活していない学生が多いのではないかな。

研究室、教員による研究内容のレベルの格差があるように感じられた。研究機関であるのと同時に教育機関でもあるので、教員の方々はその事を十分理解し、指導にあたって欲しいと思う。大学院生に対し、授業等の雑用を度を越えてやらせたり、ただの実験用員ではなく研究活動を通して、良好な人間形成が図れるように務めていただきたい。

大学院のカリキュラムにインターンシップを義務づけた方が良いと思います。

TOEIC 試験対策、英語でのプレゼンテーションに関する教育があったらよかったと思います。

国際実践演習はとってもよかったですが国内実践演習のほうがやや時間(日数)が短かったと思いますので、3日間以上があれば、より良い結果が出せると思います。

【知能システム/システム工学】

基礎教育は非常に重要だと思いますが、学んだ事が社会でどのように活かすことが出来るのか、ということがイメージ出来るような講義が少しあったらと思います。

私が在学中はやみくもに数学、物理などを学んでいましたが、頭の中でイメージが湧かず、学習効率は良いとは言えませんでした。(もちろんそれでも大丈夫な人もいますが...)

自分が今、何のために勉強しているのかということを学生にしっかりと伝えて頂けるよう、よろしくお願い致します。

討論会を増やした方が良い。

自分の意見を述べる場を増やした方が良い。

大学院での研究発表などは全て英語発表にすべき。大学院の学生の半数は英語を話せるような環境を作るべき。

研究室の移動等で、研究内容を深める事ができずに卒業してしまう人が、多くいるような印象がある。(学生の意志ではない移動等)

英語能力に関しては、どのようなレベルを目座しているのか、わからなかった。

TOEIC 等何でも良いので具体的な数字や結果を目標とする方が、良いと思う。

チームを組んで、何かの課題に対して、各々の専門性でアプローチをとるような想像と行動にウェイトをおいた授業があっても良い。

(学生の時は、自分はこの専門性が生きてゆくという意識が低く、将来的に分野の違う人達と仕事をする事になるため。)

4カ(材料、流体、熱、機械)の内、材料と機械は受講した。

流体と熱は受講したければ他学科(専攻)に受けにいける必要がある。独学には限界がある。

知能システムに4カの講義を導入することで、視野・就職先等が広がるのではと思う。

英語教育や討論、プレゼンテーションの機会をもっと増やすとよりよくなると考える

もう少し講義数を減らし、修士研究に充てる時間を増やした方が良いと思う。

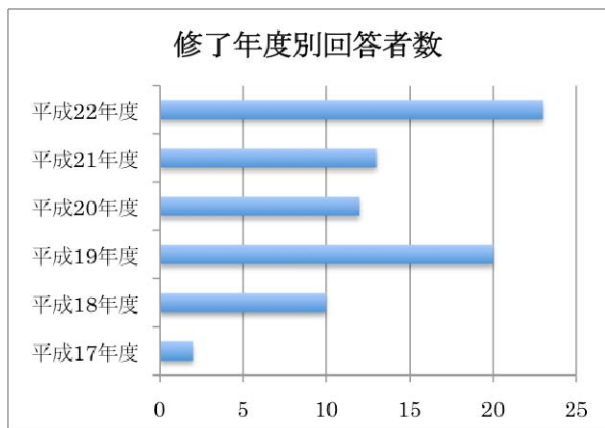
【応用粒子線科学】

私が在学していたときは企業・他研究室との共同研究を行う機会が少なかったと思います。企業・他研究室と共同研究を行うことで、学生の専門的な知識・スキルの向上に繋がるのではないかと思います。”

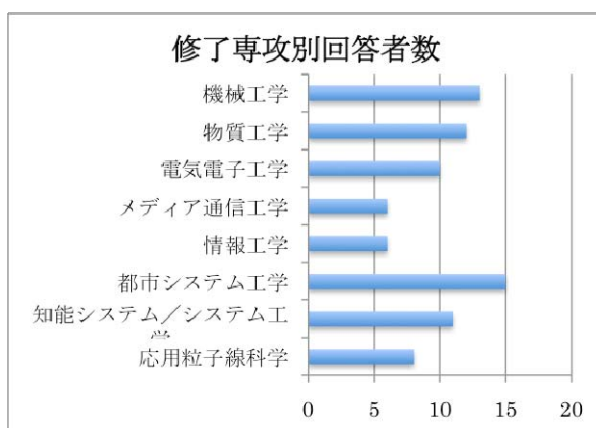
修了生アンケート 回答集計のグラフ表記

A. 修了年次、専攻についてお答えください。

問1. 修了年次



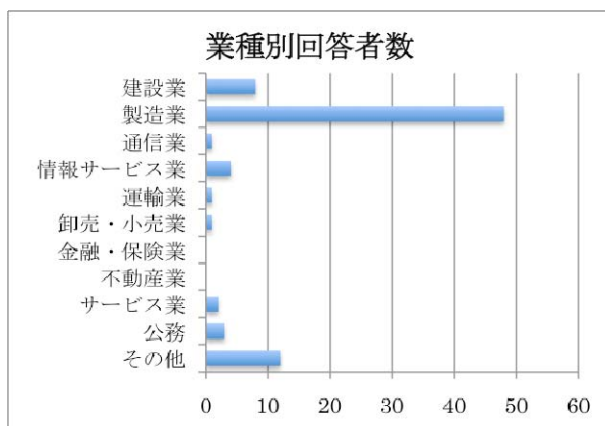
問2. 出身専攻



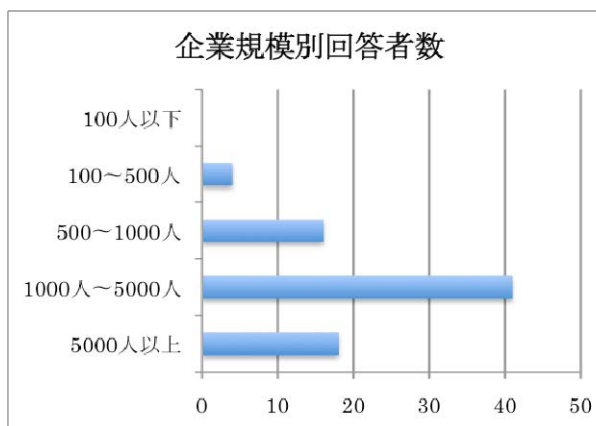
B. あなたの現在の就職先、進学先についてお答えください。

問3. 就職・進学 就職者のみ(81名)

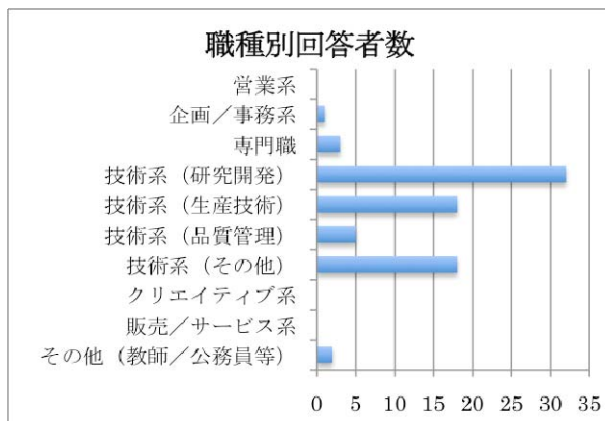
問4. 業種



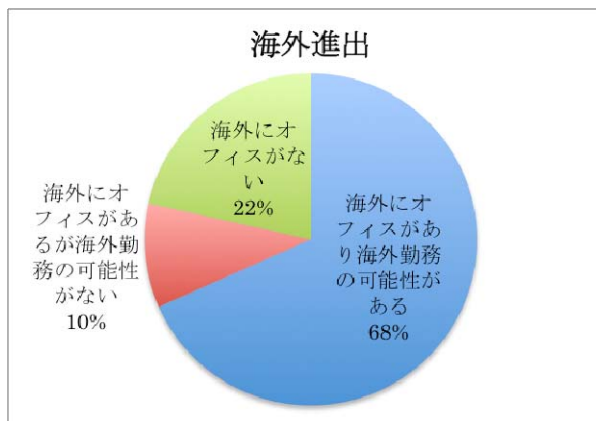
問5. 企業に就職された方はその規模(従業員数)



問6. 職種

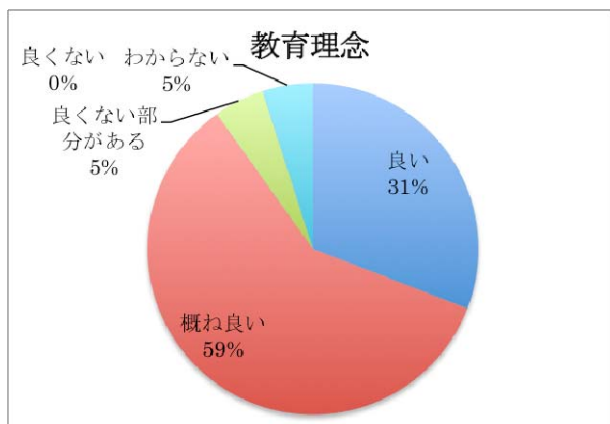


問7. 海外進出



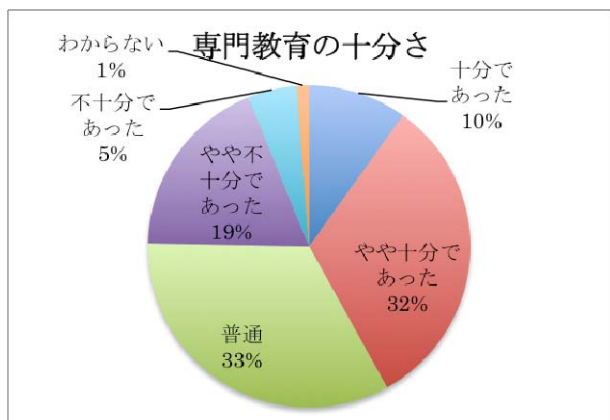
C 茨城大学大学院理工学研究科は、次の教育研究理念のもと3つの目的を掲げています。
これらの内容についてどうお考えですか、次頁の問8の質問にお答えください。

問8.「理念」や「目的」の内容について

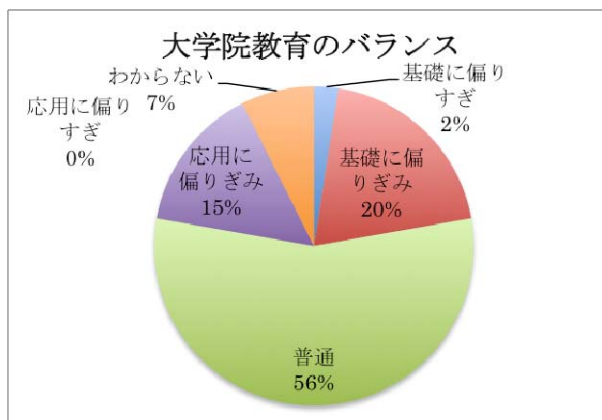


D. 以下にあなたが茨城大学大学院で受けた教育についてのご意見を伺います。

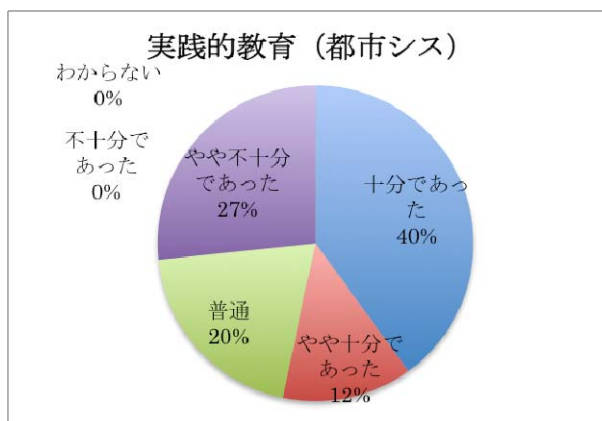
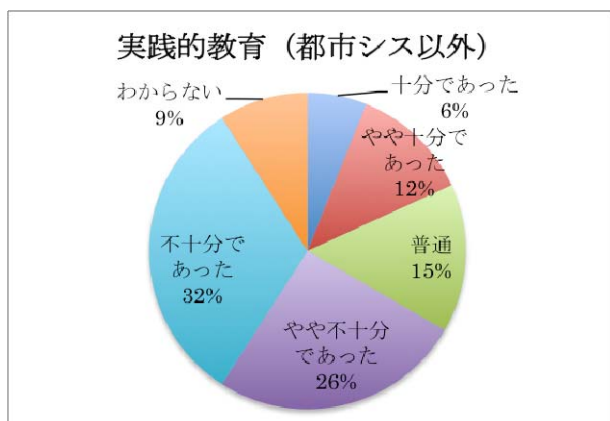
問9. あなたが茨城大学大学院で受けた専門教育は、十分であったとお考えですか。



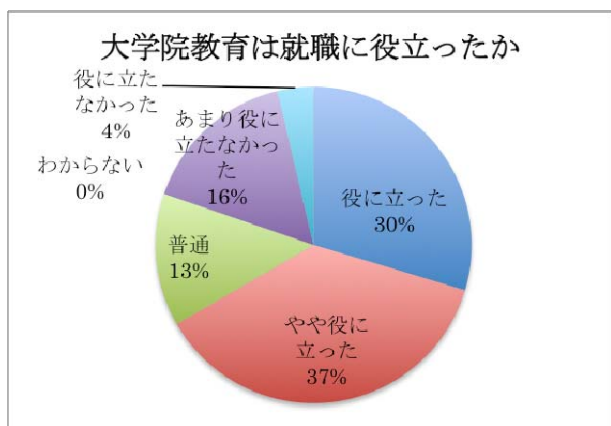
問10. あなたが茨城大学大学院で受けた大学院教育における基礎と応用のバランスはいかがでしたか。



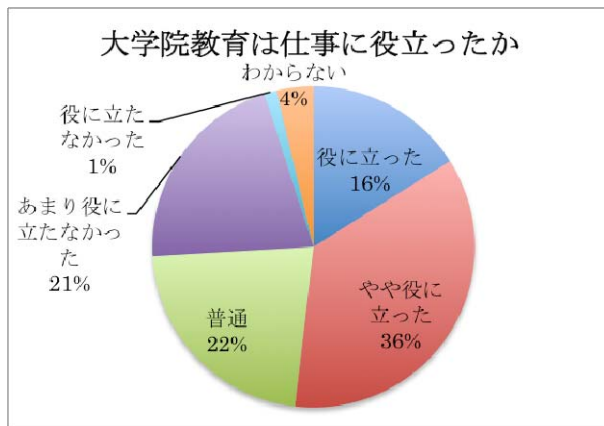
問11. あなたが茨城大学大学院で受けた実践的教育(企業実務を模擬した教育やインターンシップなど)は、十分であったとお考えですか。



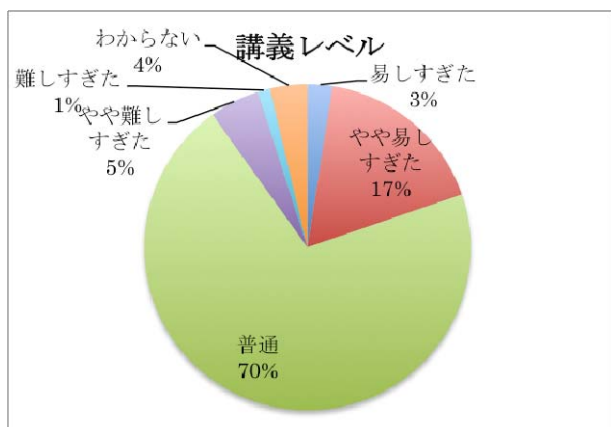
問12. あなたの就職に際し、大学院教育は役に立ちましたか。



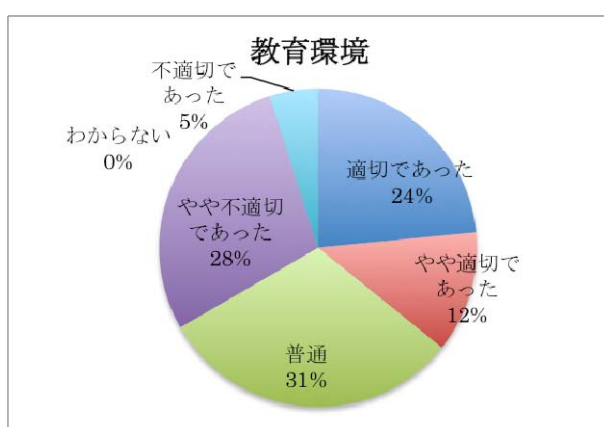
問13. あなたの現在の仕事に、大学院教育は役に立ちましたか。



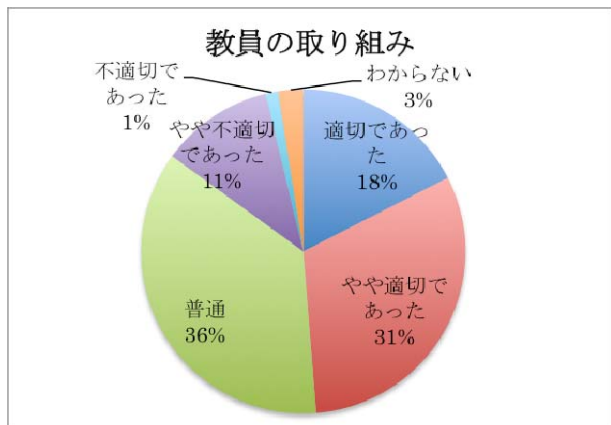
問14. 講義のレベルは適切でしたか。



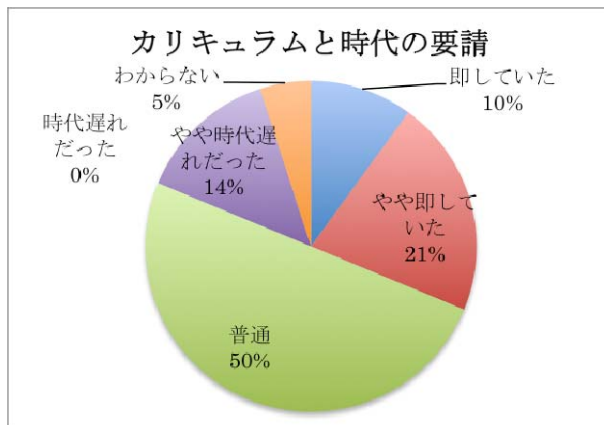
問15. 教育の環境、教育設備等は適切でしたか(受講人数、教室の広さ、教室の設備、冷暖房など)。



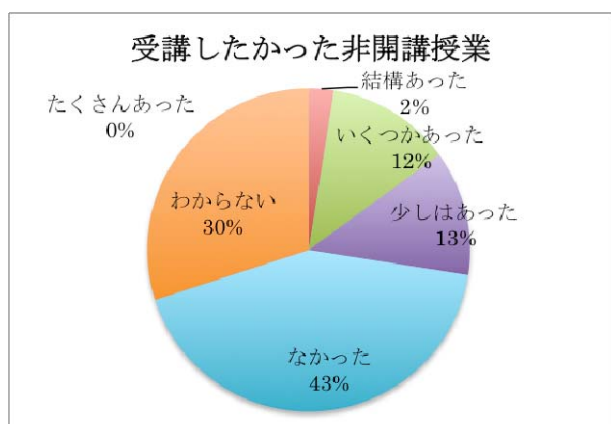
問16 教員の講義に対する取り組みは適切でしたか。



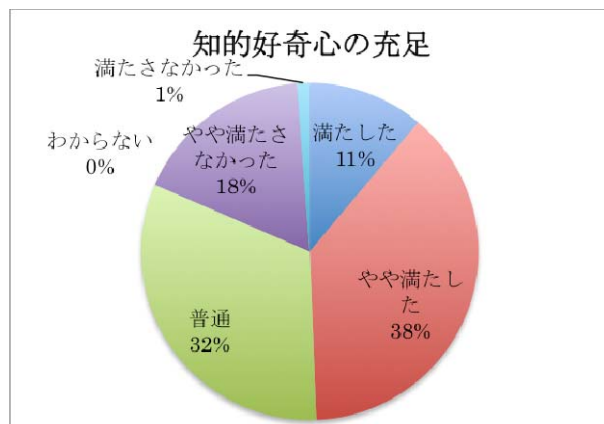
問17 カリキュラムは時代の要請に即していましたか。



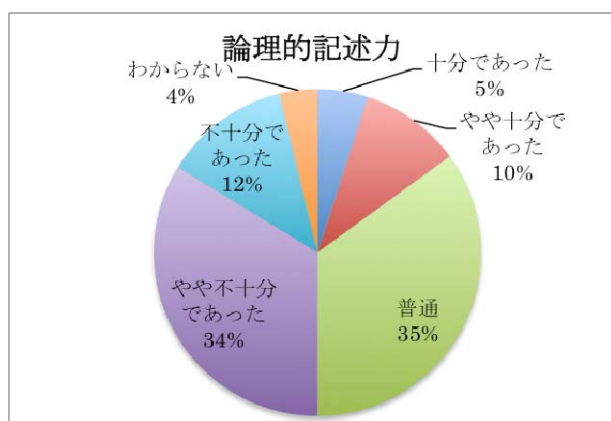
問18. 受講したかった分野で開講されていなかったものはありましたか。



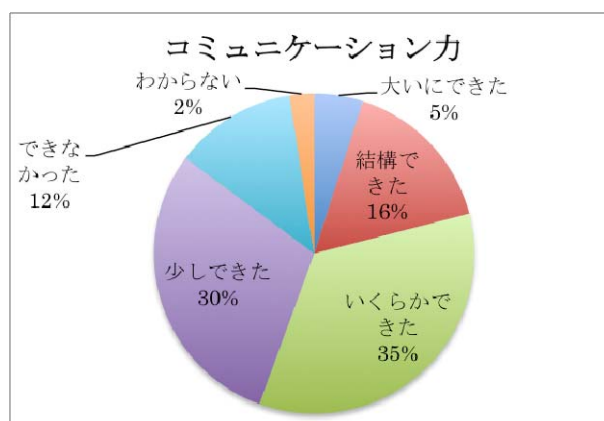
問19. 講義は知的好奇心を満たすものでしたか。



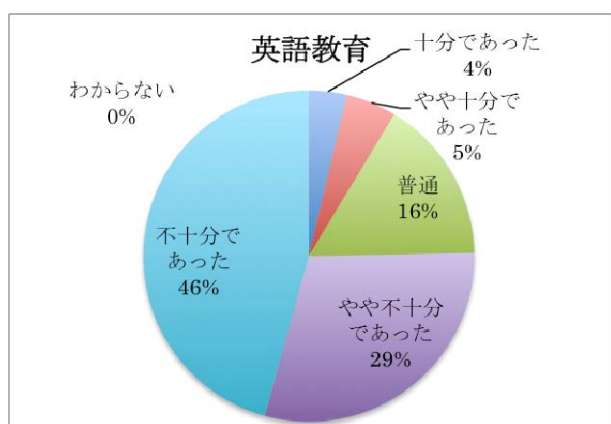
問20. 日本語による論理的記述能力に関する教育は十分でしたか。



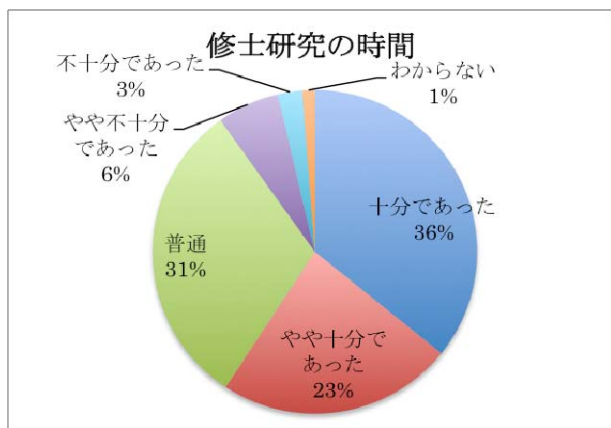
問21. 日本語による口頭発表能力や討論などのコミュニケーション能力を身につけることができましたか。



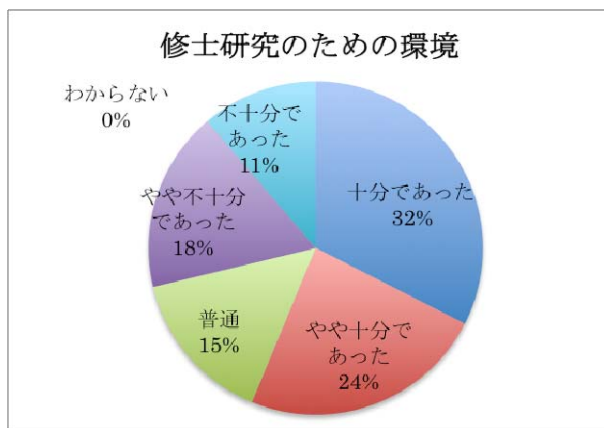
問22 英語の教育は十分でしたか。



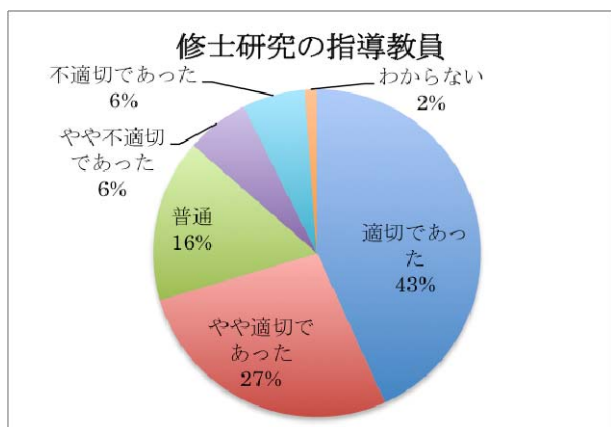
問23. 修士研究に充てる時間数は十分でしたか。



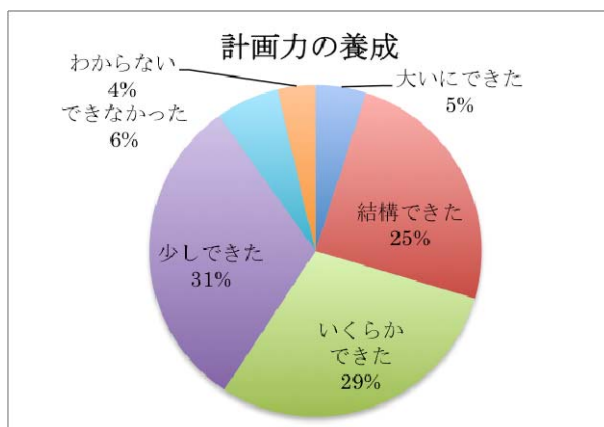
問24. 修士研究のための設備や研究室スペースは十分でしたか。



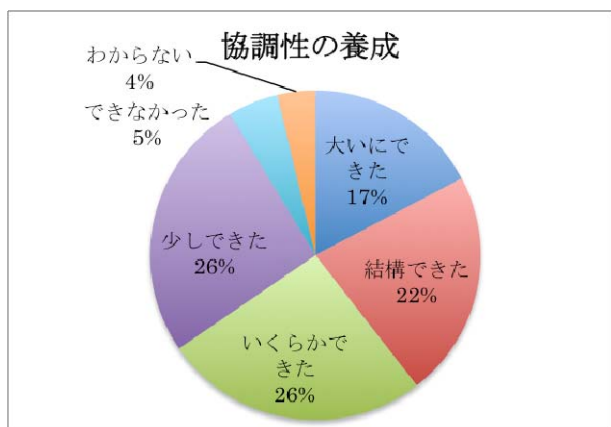
問25. 修士研究における教員の指導状況は適切でしたか。



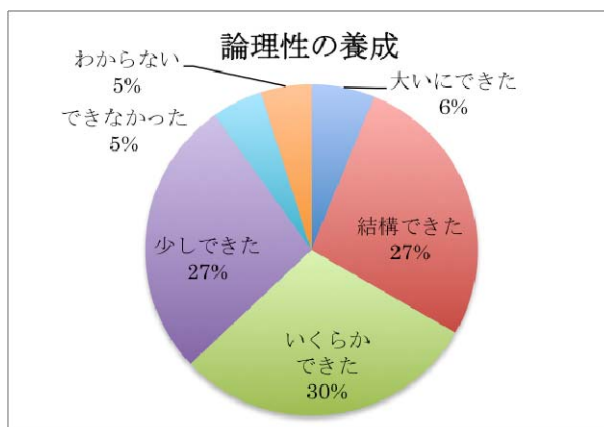
問26. 計画的に仕事を進める能力を身につけることができましたか。



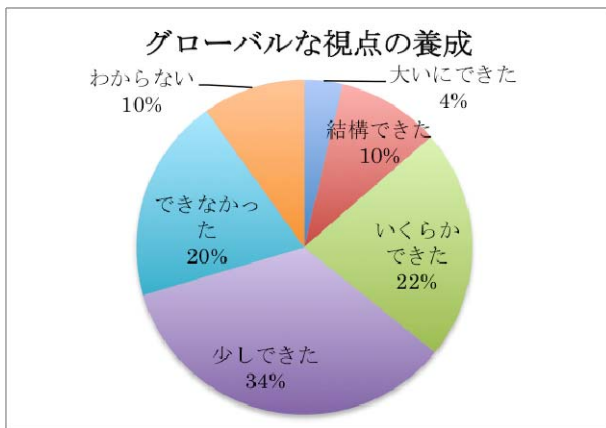
問27. チームを組んで良好な対人関係を保ちながら仕事を進める能力を身につけることができましたか。



問28. 技術者として必要な倫理観を身につけることができましたか。



問29. これからの技術者に必要なグローバルな視点から物事を見る能力を養うことができましたか。



問30. 大学院の教育・研究の大学学部教育・研究からのつながりは良かったですか。

